

学校法人五島育英会 学校評価（自己評価）制度
2024 年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	荒屋 勝壽

重点目標Ⅰ 良質な教育の実践				
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践				自己評価 S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
新規課外活動の実施・検証	・サッカーあそび、ミュージカルあそびの保護者アンケートに基づく改善点をコーチ及び講師と確認して実施する。 ・保育室で実施可能な課外あそびを検討する。	○コーチと振り返りミーティングができたか。 ○アンケートに基づく改善ができたか。 ○計画実行することができたか。	※サッカー ○毎回終了後に振り返りを行い、よかった点、課題点の共有ができた。 ○技術習得が見られないという感想に比べ、ボールコントロール、ボールを蹴る強弱、足の使い方など多彩な練習とゲームを組み合わせて行った。成果が分かりやすく確認することができた。 ○お披露目会を含め、火曜日（年長）、木曜日（年中）と計画通りに実施することができた。	○体験会の導入（検討）。 ○ミニゲームの開催時期。 ○実施曜日の定着。 ○新規課外あそびの実施検討。

			※ミュージカル ○毎回終了後振り返りを行い、講師と活動内容を共有することができた。 ○人数が多く回数が少ないという要望に応え、人数を35名から30名に、実施回数を年間15回から17回へと変更した。 ○お披露目会を含め、月曜日2クラス制（年中、年長混合）で計画通りに実施することができた。	
①新しい体づくり活動の実施	①正課運動あそびの検証を踏まえ、「体づくり」教育プログラムの充実を図る。 ・夏場の園庭保育活動の充実を図る。園庭遊具の調査研究を進め、充実を図るための新規設置計画を立てる。	○検証と充実が図られたか。 ○具体的な検討がなされたか。	○「運動能力向上」が印象として感じられないという保護者の声に応え、跳び箱をレベル別に段数を分けたり、スモールステップを大切にしたプログラムを導入して、成果がわかるように取り組んだ。その結果、身体能力の向上、精神的成長を感じたと評価した保護者が各学年で増加した。	○「体づくり」の教育プログラムのさらなる充実を図る。 ○チームで成し遂げるような活動の導入。 ○運動能力向上の検証。 ○園庭遊具の新規説地の調査検討。

			○お披露目会を含め、実施回数 19 回と計画通りに実施することができた。 ○夏場の高温による園庭活動制限を緩和するため、園舎園庭側と砂場の周囲にミストを設置し、園庭活動の安全確保と子どもの健康対策を促進することができた。 ○園庭遊具新規設置を業者と検討することができた。	
2 虫歯予防の取り組みの継続	②虫歯罹患率の経年変化調査を継続する。 ・ 歯磨き教室の継続実施	○虫歯罹患率の調査が継続できたか。	○計画通りに各学年の歯ブラシ教室を実施することができた。 ○3 学年虫歯罹患率の数値化が継続できた。年少 0%、年中 4.3%、年長 10%と全体平均で 3 年連続で全国平均（2023 年度 17.6%）を大きく下回った。	○虫歯罹患率の調査継続実施。

重点課題② サポート体制の充実				自己評価	SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
預かり保育の充実	・預かり保育保護者アンケートの結果を分析し改善に取り組む。 ・2023 年度と同規模の正課保育後の預かり保育、長期休業中の預かり保育を実施する。年少は9 月以降の利用で計画。 ・正規保育と預かり保育の教員配置体制を分ける運営を検討。 ・預かり保育を行う保育室の机や備品を計画的に整えていく。 ・月曜日から金曜日まで保育前実施時間を8 時から9 時、水曜日の保育後実施時間を1 2 時から1 8 時、長期休業前午前保育の午後の実施時間を1 2 時から1 8 時、長期休業中の実施時間を8 時から1 8 時とし、それぞれ朝夕の時間枠を拡大する。 ・スポット利用（1 時間2 5 0 円＜朝8 時～9 時のみ5 0 0 円＞）と定期利用（月2 万円）を設け、保護者が利用しやすくする。 ・年少組の利用を9 月から5 月に早める。 ・年間実施日数を2 0 9 日に拡大する。 ・預かり保育料の支払い方法を現金からキャッシュレス（エンペイ）に変更する。 ・TOKYO 子育て応援幼稚園制度を利用する。	○運営上の改善が図られたか。 ○平日の利用者数が4,489 名を上回ったか。 ○教員配置を実現できたか。 ○計画的に整えることができたか。 ○平日の年間利用者数が7,000 名を上回ったか。	○朝8 時から9 時、正課保育後から1 8 時まで時間枠を拡大して実施。長期休業中は、朝8 時から1 8 時まで実施。スポット利用と定期利用の選択制を導入。新規計画通りに運営実施ができた。年間2 1 5 日実施。 ○年少児の受け入れを5 月から行うことができた。 ○平日の利用者数を含め年間利用者数が1 3 6 4 4 人（4 月～3 月）となり、目標を達成することができた。 ○正課教員と預かり保育専門の教員配置を分けて行うことができた。 ○コドモン、エンペイを導入し、キャッシュレス化を実現。	○満足度調査を踏まえた運営内容の改善。 ○保育内容の充実。	

重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①外部研修会の参加 ②グループ校の視察研修を実施	①教員の外部研修を行う。外部講師を招いての研修を充実させる。 ・教務部による研修に「担任研修」を導入する。 ②等々力中高、付属中高への教員派遣視察研修を計画する。	○延70名の参加があったかどうか。 ○担任研修を実施することができたか。 ○視察研修ができたか。	○外部研修会(夏・冬・春)参加、オンライン研修を含め延べ73名参加。研修報告会を実施し研修内容の共有を図ることができた。 ○教務部が年間7回の内部研修を企画実施。外部講師を招いての研修を3回実施。 ○2月19日教員14名で付属小学校を訪問し視察研修を実施。	○外部研修への参加を促進する。 ○教務部主催研修の内容吟味。 ○付属小学校への視察研修継続実施。	
重点課題④ー1 ICTを利用した教育計画				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
KitSの活用	・KitSを使用した発表活動計画を立てて、実践する。 ・KitS活用の教員研修を計画して実施する。	○KitSを利用した発表活動ができたか。 ○教員研修ができたか。	○年長組で発表活動をすることができた。 ○KitS活用の教員研修を学年別で実施することができた。	○KitS研修への継続参加。	

重点課題④ー2 国際化計画				自己評価	SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①きつつアース国内留学を導入 ②サイバードリームの継続実施	①きつつアース国内留学を年長クラスで導入。世界30か国のガイドとオンラインで交流。多文化に触れる体験を地球規模で実施。期間2024年4月から2025年3月まで。 ②サイバードリーム学習パックのレベルアップを検討 ・サイバードリームのネイティブ講師による園児向けレッスンを計画して実施する。 ・学年別によるサイバードリームのネイティブ講師研修を計画し実施する。 ・教材や備品の購入を予定。	○教育計画を立てることができたか。 ○きつつアースの活用が図られたか。 ○ネイティブ講師のレッスンを定期的に実施できたか。 ○学年別の研修ができたか。	○「きつつアース」「サイバードリーム」「英語であそぼう」「仲良し会」を計画立てて行うことができた。会話・発表形式の活動を実施。 ○6月から2月まで年間で10回「きつつアース」を実施することができた。 ○附属小学校ネイティブ教員、等々力中学・高等学校ネイティブ教員が学期に1回来園し「英語であそぼう」を実施。サイバードリームネイティブ講師が3回来園しオールイングリッシュで英語活動を行うことができた。	○メニューのバージョンアップを図る。 ○サイバードリームネイティブ講師の来園を3回実施。 ○教育的効果の検証。	

重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大				
重点課題 各学校の連携強化				自己評価
				A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
①塩尻高校生の職場体験学習の推進 ②塩尻高校留学生との交流を検討 ③都市大生サポーターの受入れ拡大 ④グループ校ネイティブ教員による英語活動の継続実施 ⑤内部進学制度付属小学校説明会の実施	①塩尻高校職場体験学習生徒受け入れ、職場体験学習実施の検証を行い、生徒受入れの定例化を計画 ②国際交流という形で塩尻高校の留学生を受入れ計画を立てる。 ③検証に基づく学生サポーターの受入れ ④付属小、等々力中高ネイティブ教員による英語活動の継続実施 ⑤内部進学説明会を年長、年中を対象に実施。年少はZoom配信予定 ・小学校受験をテーマにした講演会を行う。	○計画のための話し合いができたか。 ○現実的な幼大連携を確立できたか。 ○継続実施ができたか。 ○園主催で講演会を開催できたか。	○職場体験の計画化はできなかった。 ○夕涼み会、運動会への学生サポーター参加を実現。現実的な幼大連携を行うことができた。 ○ネイティブ教員による「英語であそぼう」を継続実施。 ○内部進学説明会を継続実施。 ○小学校受験をテーマにした講演会は資料を配信する形で実施。	○塩尻高校との連携を再検討する。 ○幼大連携の現実的なあり方を検討して実施。 ○付属小学校、等々力中学・高等学校ネイティブ教員の英語活動を継続実施。 ○等々力中学・高等学校理科部科学体験教室の継続実施。
重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実				
重点課題 学習環境の整備・充実				自己評価
				SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
学習環境の整備充実	・保育室、廊下、玄関、教員室、園長室、事務室の飛散防止フィルム施工 ・園庭側園舎、砂場周りのミストシャワーの設置 ・エアコン 16 台のクリーニング	○予定通りできたか。	○飛散防止フィルム施工を予定通り実施。 ○ミストの設置予定通り実施。 ○エアコンクリーニングは園長が実施。専門業者は来年度対応。	○中長期計画に基づき計画を実行。

重点課題 効率的業務の推進				自己評価	SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①園運営支援のシステムの継続利用 ②幼稚園紹介 DVD 制作	①入園試験 Web システムとパステルの継続利用 ②幼稚園紹介 DVD の制作	○システムの分析改善運営ができたか。	○使用状況の確認、運営の改善を行い継続使用。 ○パステルからコードモンへ新規変更。	○入園試験 Web システム（ミライコンパス）の継続使用。 ○コードモン・エンペイの使用を安定化する。	
募集広報活動				自己評価	C
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
園則定員 70 名達成	説明会・保育見学会・施設見学会 8 回開催で志願者 100110 名（男児 5055 女児 5055）を目指す。 ○区内就園児数が急激に減少。安定的な定員確保が課題のため、広報活動を見直す。 ・ 7/12、7/31 の説明会を 9/17、10/21 に変更。 ・ 5/27、6/18 の説明会に学事部が支援参加。保育見学会と説明会を実施する。 ○預かり保育、課外活動の見直し改善。 ○保育教育活動の検証。 ○外部説明会、フェスタへの参加増検討。 ・ 6 月 29 日の世田谷区私立幼稚園フェスタに初参加。	○志願者 100 名を達成できたか。	○説明会 6 回実施（昨年度 13 回）。園長見学ツアー 1 回（A・B）、園長ミニ説明会 1 回（A・B）実施。延べ 1 8 2 家庭 2 8 4 名参加（昨年 169/296）。志願者数 8 9 名（昨年 53 名）。志願者数は目標未達。	○広報活動の見直し。 ○預かり保育、課外活動の見直し。 ○保育教育活動の検証。 ○プレ保育、園庭開放などの実施。	

学校長による総括

総合
評価

A

総括評価は、各重点課題を総合的に判断して「A」とした。

第2期事業計画（2021年度～2025年度）の4年目に当たる2024年度は、保育教育活動の通常化（コロナ禍前に戻す）を軌道に乗せ、さらにより良い内容とするための努力をした。重点課題の達成のため、園運営上の安全をしっかりと確保し、園児の健康と安全を守りながら目標達成に向けて努力を続けた教職員の姿勢を高く評価したい。教職員の保育に情熱を持った取り組みや工夫は、通常の保育教育活動を軌道に乗せ、さらにより良い内容になると期待する保護者の心配を小さくしたと思われる。コロナ禍は、子どもの命と健康、安全を何よりも優先し、制限ある保育教育活動の展開に教員たちが大いに葛藤した時期であったが、保育教育の通常化を軌道に乗せ、より良い内容にしていくための取り組みは、重点課題達成への取り組みと一致していた。コロナ禍前の「通常」を知らない教員もいる中で、「通常」から「発展」という前進は、困難よりも希望をもって実践することができた。園目標の実現は、教員たちが心をつぎにして取り組んだ証である。一方園児募集状況の厳しさは続いたが、志願者数昨年比1.8倍と増やすことができた。全ての教員が危機感をもって広報活動に取り組んだ結果である。目標は未達であったが、幼稚園運営に大きく貢献した教職員を称揚したい。

1. 教育活動

（1）保育教育活動の発展

○小学生との交流

今年度、小学生との交流を積極的に行った。年長組が二子玉川小学校を訪問し、小学校一年生生活科学習成果のお披露目の場『秋を見つけてあそぼう』に参加した。タイトルは「にっこり どんぐりパーク」。いっしょにあそんで帰園した。2度目の訪問では、教室、特別教室（音楽室、図工室、図書室など）などを見学した。算数の授業やタブレットを使った授業に参加し、小学生の授業を体験した。年中組が付属小学校を訪問し、1、2年生と交流をした。アリーナでのレクリエーション、学校探検、さよならセレモニーを行った。年長組、年中組の子どもたちが小学校生活に胸を膨らませ、進学への準備を整えるための学訪問を実現した。

○食育

プランターを使用した園内野菜栽培や二子玉川ライズ菜園を利用した野菜栽培を行い、土づくり、成長の観察、収穫、調理と一連の過程を体験し、各学年学期に1回調理活動をすることができた。食育活動、異学年交流のまとめとして、年長組が調理をして年中組、年少組にふるまう「縦割り昼食」を今年度も実施した。また、昨年度より継続して、食育に関するおたよりを月1回発行し、保護者と連携することができた。

○行事

春の遠足、夕涼み会、お泊り保育、敬老の日の集い、芋ほり、歩き遠足、クリスマス会、餅つき、凧あげ、マラソン大会、お別れ遠足は、コロナ禍の経験を活かし内容をアレンジし、制限や制約を設けることなく通常実施ができた。夕涼み会、敬老の日の集い、クリスマス会、マラソン大会、月1回の誕生会は、3学年合同で行った。三人行事の運動会、発表会、音楽会は、一部保護者の参観人数に制限は設けたものの、参観環境を通常に戻して実施することができた。幼児期の成長をしっかりと確認したいという保護者の願いに、教員が努力や工夫を重ねて応えることができた。

○「サッカーあそび」「ミュージカルあそび」

課外の「サッカーあそび」「ミュージカルあそび」は3年目を迎えた。活動の充実を図るために、人数を変更するなど新たな内容で実施した。それぞれ、設定した目標は達成できた。参加した園児が楽しそうに活動する姿が観察できた。昨年同様保護者を招待した「お披露目会」も行うことができ、子どもたちの成長した姿を伝えることができた。運営に当たっては、課外スタッフと教員がしっかりと連携して安全な環境を確保しながら行うことができた。運営や内容、お披露目会に関する保護者アンケートを実施し、効果測定を行うこともできた。課題や改善点が明確になり、次年度に活かす計画である。

(2) 国際教育の推進

○英語教材サイバードリーム

英語教材サイバードリーム内容のレベルアップを図り、各学年毎朝10分間の英語活動を行なうことができた。学期に1回ネイティブ講師が来園し、年少、年中、年長クラスで対面の英語活動を実施した。TV画面に登場するネイティブ講師が実際に保育室に現れ、生活に関する単語を発音したり、ジェスチャーを交えて歌を歌ったり、子どもたちは目と耳と体で英語活動を楽しんだ。簡単な質問を園児にして園児が応える場面を学年別で導入し、会話形式でレベルアップした活動を行なった。

○英語活動「英語であそぼう」

付属小学校、等々力中高から学期に1回ネイティブ教員が来園し、歌を歌ったり、ゲームをするなどの英語活動を行なった。曜日、天気、日常にまつわる気持ちの質問をするなど、簡単な会話をする場面を導入して英会話に繋がる活動を行うことができた。

○英語あそび きつつアース

世界30か国に在住するネイティブガイドとオンライン交流をし、地球規模の多文化体験を一年間で10回実施した。「レア昆虫発見」「ヘビ救出大作戦」「ライブ昆虫採集」「食虫植物を知ろう」「めずらしい野菜と果物」「クリスマスのお宅訪問」など多彩なテーマで、本園の保育教育活動の柱の一つでもある多文化教育を推進することができた。外国の言葉の背景にある文化に子ども自らが興味を持ち、英語を用いたコミュニケーションを楽しむ姿が観察できた。テーマは異なるが同じ内容の回もあり、今後の課題確認もできた。

(3) 健康な体づくり

○正課運動あそび

今年度も「骨太な体づくり」をねらいとした指導計画の立案を依頼し、ねらいを定めて実施することができた。レベルの工夫やスモールステップを大切にしたプログラムを導入し、成果がわかるように内容の充実を図った。成果発表会（お披露目会）を実施、一年間の活動成果を保護者に伝えることができた。運動機能の向上、子どもの変化、取り組みの成果について保護者アンケートを実施し、一年間の活動内容を検証することができた。その結果、身体能力の向上、精神的成長を感じたと評価した保護者が各学年で増加した。全学年で、柔軟性や運動能力の向上が観察された。

○歯の健康

年長児の虫歯罹患率は、10%（昨年度0%、一昨年度12.7%、一昨々年14.3%）だった。全国平均が17.6%であることからわかるように、罹患率の低さのみならず未処置の園児が少ないことは、保護者の歯への意識が高いことを示している。校医（歯科）による歯ブラシ教室は、昨年度に引き続き全学年で実施することができた。

今後も継続する予定である。

2. 預かり保育

朝の年間利用者数（4月～3月）延べ1,595名、午後の年間利用者数（4月～3月）延べ12,049名であった。朝預かりの新規導入、保育後預かり18時までの時間枠拡大により、利用者が大幅に増加した（昨年度年間延べ利用者数6,551名）。年度比約2倍の利用があった。昨年度は200日を切る実施回数であったが、今年度は215日実施することができた。運営面及び内容に関する保護者アンケートを実施し満足度調査を行った。預かり保育専属教員の配置、登園前実施、終了時間の延長、年間実施日数の拡大、実施プログラム、料金体系、スポット及び定期利用の選択実現等々、改善に取り組んだ多く点が満足度調査で評価された。さらに満足度調査を踏まえた運営内容の改善を図る予定である。担当する教員の保育への真摯な取り組みによって、ケガや事故などなく、一年間の業務を終えることができた。預かり保育に携わった全ての教員の姿勢を高く評価したい。

3. 分掌業務

○事務部

入園手続き、保育料及び各自治体の補助金業務を正確に行う。東京都、世田谷区の各種補助金申請については、該当事業の精査、申請書類等の作成提出を遅延なく正確に行うことができた。預かり保育利用料の領収等を正確に行う。用品購入などは、教員と緻密な連携のもとで行われている。園舎内外の修繕を徹底して行うため業者依頼をスピーディに行い、園児の安全な園生活を実現している。用務員の園内衛生・清掃業務は徹底しており、健康で安全な園児の園生活を実現するとともに保育教育に専念する教員の業務に大きく寄与している。教員と事務部の円滑な連携協力は、昨年度に増して評価することができる。事務スタッフ、用務スタッフの誠実に業務に取り組む姿勢は、園児の幼稚園生活、保護者の幼稚園対応、教員の保育教育業務を大きく支えている。事務機能の充実とキャッシュレス化を図るための新システム導入は、保護者の利便性を高めただけでなく、正確な事務処理を可能にした。

○教務部、広報・保健・安全部、総務・管理部

教務部は、園内教員研修の計画と実施、入園考査の改善と実施に取り組んだ。広報部は、2025年度広報を企画立案し、ホームページのリニューアルやパンフレットの改訂を行った。法人プロジェクトチームとの連携を強力に進めた。総務・管理部は、ふたば会（卒園生同窓会）の計画と実施、図書室の整理・蔵書点検、課外あそびの運営に取り組んだ。分掌活動は6年目に入り、業務の改善と定着が図られている。

4. 教員の質向上と教員研修

外部研修（夏・冬・春）参加者は、オンライン研修を含めて延べ73名が参加し活動目標を達成した。研修報告会を実施し研修内容の共有を図っている。教務部主催の園内研修は、『瀬田小学校までの避難経路の確認』から始まり『子どもの人権について』、『造形あそび』などを実施。うち外部講師を招いての研修は3回実施した。2月19日教員14名で付属小学校への視察研修を実施。体験・参加型の研修を通して、保育教育に関する知識を習得し、スキルの向上を図ることができた。

5. グループの連携

都市大グループ、東急グループの一員として、スケールメリットを多くの活動で活用することができた。幼大連携の具体的なかたちとして、学生サポーターを受け入れることができた。今後の連携の在り方を検討し、より現実的な連携を実現していきたい。附属小学校、等々力中高のネイティブ講師による英語活動、等々力中高の理科部による科学体験教室は、昨年度に引き続き行うことができた。正課運動あそび、年長水泳指導、課外サッカーあそびは、東急スポーツシステムより派遣される専門コーチの指導を受けている。昨年度に引き続き、歩き遠足やマラソン大会などの行事サポートに加わっていただき、園児の安全確保に尽力いただいた。

6. 教育環境の整備

○園内 ICT 化

園内の無線 LAN の整備により、各行事や講演会のライブ配信を行なえるようになった。加えて、「コドモン」「おうちえん」を活用して、保育教育活動の様子を定期的に家庭に届けることができた。

○砂場その他園庭の整備

砂場の砂を足し整備した（消毒済み、学校用の砂）。子どもの登園前降園後、園庭の整備を教員の当番制で毎日行うことができた。危険なものが落ちていないか、遊具に不具合がないかを確認し、ケガ防止のラバーを箒で掃くなど安全確保に努めた。砂場は、砂をチェックした後に網を掛け動物などのいたずらを防止し衛生状態を保つ。子どもたちの健康と安全を守る万全の体制を整えている。安全に園庭活動ができる環境を引き続き整えていく。

○保護者の満足度調査

昨年度に引き続き卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が 92.5%（昨年度 82.5%、一昨年度 95.0%）、やや満足が 7.5%（昨年度 14.3%、一昨年度 3.0%）という数値であった。満足の割合が 10 ポイント上昇した。この増加は、保育教育の通常化を軌道に乗せ、さらにより良い内容へと発展させるために、日々の保育教育活動に情熱をもって取り組んだ教員の努力に他ならない。また、共働きの家庭が多くなる中、預かり保育の時間枠及び実施日数を拡大した。それに伴い利用園児数が昨年度より倍増した。預かり保育担当教員の子どもをしっかりと見守った努力、正課教員の預かり保育運営への細かな協力が保護者の信頼に繋がったことが、ポイント上昇の一因となったものと思われる。一方で、幼稚園全体の保育教育の在り方への課題も示されている。満足度調査によって示された改善点へのアプローチは丁寧に行っていききたい。数値的には、保護者の期待に応えて一定の評価が得られたと考えてはいるが、一方で厳しい意見は真摯に受け止め、改善を図っていききたい。

7. 志願者数の分析

願書受付日の志願者数の推移は、89 人（2025 年度）→48 人→75 人→90 人→108 人→112 人→108 人→117 人→112 人→76 人（2016 年度）となっている。今年度は、昨年度比 1.8 倍であった。とは言え、志願者数目標 100 人は未達成となった。弟妹の志願者数は、昨年度と同数であった。世田谷区内 58 園の志願者総数は 2,055 人で、昨年より 133 人減少した。ここ 5 年間の増減の推移 - 133, -331, -594, -312, -484, -365 で、ここ 5 年間で区内の志願者総数は 2,219 人減少している。また、来年度 4 月の 58 園の定員充足率は 61.2%と予想され、前年度から 4.2%の減少となる（5 年前の充足率は 98.1%）。募集活動は年々厳しさを増している。定員確保には、保育教育活動の魅力をしっかりと発信していくことが重要であり、共働き世帯が安心して選択できる幼稚園であることが肝心である。課外活動や預かり保育の改善を図り、志願者増を目指し施設見学会や保育見学会を開催していきたい。今後も、建学の精神、教育方針を保育教育活動で示しながら、特色ある教育の充実を図ることなどについて議論を一層進めていきたい。

学校関係者評価

学校評議員 A

教職員皆様の広報活動により、2025年度入園の志願者数が1.8倍と聞き、安堵した。活動の結果がしっかりと出ており、今年度の積極的な活動へ繋げてほしいと感じる。志願者数が増えた理由の一つに、預かり保育が朝の時間帯も増え、共働き家庭だけでも幼稚園に通わせたいと思う保護者のニーズに応えることができたのだと思います。しかし、預かり保育の日数、時間が増えれば増えるほど、保護者としては預かり時間の活動内容についても要望が出てくると考えます。他園では、預かり保育もしくは課外活動の一つとして「はなまる学習塾」などを取り入れるところもあると聞くので、小学校入学を控える年長向けのプログラムがあると参加させてみたいと思う保護者も多いのではと考えます。もうすぐ新年度が始まりますが、教職員の皆様が一丸となって二子幼稚園を盛り上げ保護者の皆様とも連携して活気ある幼稚園になることを願っています。

学校評議員 B

2025年3月24日月曜日10より二階の絵本などが置いてある部屋で開催した。先週は卒園式があり年度末だが、預かり保育などは通常に行われ、子どもの声が聞こえ賑わっていた。床のメンテナンス＝床の研磨等で輝きが増し綺麗であった。順次どの保育室も実施するということであった。先週は雪が降ったりと冬の様相だったが、週末後は一転春の陽気になり、桜もあちらこちらで咲いている。園の桜は、前の園舎からのものだったが、寿命のため植え替えが行われた。植え替え直後なので、4月になって咲くのが楽しみである。

【全体的な意見感想】

各保育内容は順調に進んでいるようだ。私たちも運動会、子どもの発表会、子どもの音楽会などを参観、卒園式も参列し、日常の保育・子どもの成長を遠巻きながら実感した。ここ数年の傾向である、障害と診断まではいかないいわゆる境界線の園児への対応も十分であったように見受けられた。季節を負うごとに態度や行動に変化が見られた。保育内容に配慮し、各園児に沿ったカリキュラムを用意、組み立てた結果だと思う。改めて各教員の能力・技量、貴園の質の高い保育を実感した。これらの背景にあるのは、貴園の研修の成果であろう。園内研修の他に、講師派遣、他学校への研修など外部交流の機会を多く持っていることで、教員の視野の広さに貢献しているはずだ。

【実施報告書について】

各項目の内容はすべて達成されており、保育内容は十分なものとなっている。課外あそびも3年目に入り、安定した内容となってきた、と同時に長い時間の活動なのでメリハリがどう設定するかが課題と報告があった。今年度は3歳児が2クラスで、異年齢同士の交わりなどでは年少が少ないため、他の学年とのバランスに工夫したようだ。二年保育枠も設けて補充に努めているようだ。来年度の3歳児は3クラスでの運営になる予定なので、今後も工夫が必要であろう。近年の傾向として、長時間保育への潜在的な需要がある。それに応えるため、貴園も今年度から預かり保育時間を拡大した。これにより、預かり総人数も1.5倍以上となった。課外あそびへの希望者も多く、通常の保育時間外の需要が根強い傾向にあるみたいだ。一方でこの長時間保育は先進国では日本は突出しており、子どもの発達から見ても配慮する必要性があるだろう。今年度から預かり専任の職員を配置したが、専任化は良い取り組みである。今後も預かり保育のカリキュラムや内容を十分に練り込んでいただきたい。

事務運営のここ数年の課題であった集金方法も今年度はアプリを利用した方法に本格的に移行したようだ。通常の保育活動以外の活動は有償の部分が多く、また園の中では各ご家庭への集金部分も多いのがこの業界の通例となっている。出欠の確認や集金など、貴園もアプリを導入して一括管理でき、試行錯誤であったけど導入して良かった、と報告があった。

園児募集は喫緊の課題で、新しいチラシや大型のポスター、広告など教職員一体となって取り組んできた。二子玉川駅改札口への広告掲載は目立ち、私も知り合いの方から掲載を聞いた。法人本部さんからの応援もあり、今年度は出願人数も増え、それなりの成果が出たようだ。国の方針はこども園への移行であり、幼稚園は制度的に現在の主流とはなつてなく、運営がますます厳しくなっている。少子化も相まって、長時間保育の傾向は強まっていくだろう。サービスとしての、託児一辺倒ではない保育内容が肝心であろう。

目を転じると、将来の教員を育てる、いわゆる養成校への志願者が減少傾向である。大学入学者希望者率は増えているが、保育、介護分野だけは増えていない。これらの業界はともに仕事内容と待遇が合っていないという現状、イメージに起因がありそうだ。業界全体でイメージ回復に取り組みことも重要だが、貴園もより一層職員への待遇改善には取り組んでいただきたい。

幼児教育はくり返し経験が大切であるのは、いうまでもない。トレーニングではなく、様々なあそびを通し、心身ともに成長する機会を得るのが幼稚園である。貴園の保育内容はその基本を十分なものとなっており、評価は高い。今後も五島育英会、東京都市大学グループ、というスケールメリットを生かし、職員の質への向上に期待します。

学校評議員 C

学校評価「実施報告」を園長による総括内容より評議員として評価する。例えば、教育活動小学校との交流「秋を見つけてあそぼう」に参加したことを調査してみると、知性、自立心、協調性の側面で園児活動に対して高い評価を小学校よりいただいている。建学の精神に基づき、園長のリーダーシップのもと教職員一同自信をもって保育活動に邁進して欲しい。

預かり保育から見た経営努力、教職員が一致団結した成果である。預かり保育利用園児数の増大は、朝や保育後の時間枠の拡大、預かり保育専属教員の配置、料金プラン、定期・スポット利用の選択可、キャッシュレス化などを進めた成果である。

2025年度の「実施計画書」から、教育目標の達成は可能と判断します。入園式では心配な様子だった子どもたちも、卒園式では驚くほど成長した姿を何度も見てきました。

教員、事務等の雇用問題については、都市大グループを柱として人材獲得を広く求めることも必要と考える。

【自己評価基準（重点課題・その他の学校独自の課題・総合評価 共通）】

SS＝卓越した成果を上げた。 S＝目標を大きく上回る成果を上げた。 A＝目標を概ね達成した。

B＝一部成果はあったが、目標を達成していない。 C＝目標をはるかに下回る達成状況であった。

【作成上の留意点】

1. 自己評価は、責任担当部署の責任者からのヒアリングを踏まえ、学校長が行ってください。
2. 自己評価は、実施計画書の重点課題及びその他の学校独自の課題毎に行ってください。
3. PDCAサイクルの趣旨に基づき、課題・改善方法等を明記してください。
4. 学校長は、当該年度の全方位的な点検・自己評価を踏まえた総括及び総合評価を記入してください。
5. 学校関係者評価は、学校による自己評価結果に対する学校評議員の意見内容等を記入してください。